

Ⅲ 人口の概要

1 人口と面積

(1) 令和2年10月1日現在の米沢市の人口は、81,252人で山形県人口1,068,027人の7.6%を占め山形県35市町村中第4位です。

また、平成27年国勢調査（以下「前回調査」という。）に比べ4,701人、率にして5.5%減少しています。

面積は、米沢市が548.51km²で山形県総面積9,323.15km²の5.9%を占め山形県35市町村中第4番目の広さです。

また、米沢市の人口密度は、1km²当たり148.1人で山形県人口密度114.6人の1.3倍となっています。

(2) 人口の市街地、周辺地別割合をみると、市街地人口は、50,232人で61.8%、周辺地人口31,020人で38.2%となっています。前回調査と比較すると、市街地人口は2,422人減少（減少率で4.6%）し、周辺地人口は2,279人の減少（減少率6.8%）となっており、周辺地人口の減少率が若干高くなっています。

(3) 令和2年国勢調査における人口集中地区の人口は、43,470人で前回調査に比べ、2,307人、率にして5.0%減少しました。また、人口集中地区の面積は、13.77km²で前回調査に比べ0.76km²増加しました。

一方、人口集中地区の人口密度は、3,156.9人/km²で前回調査の3,518.6人/km²に対し361.7人/km²減少しています。

(4) 米沢市に在住する外国人をみると、人口81,252人のうち737人で0.9%を占めており、前回調査に比べ177人増加しています。これを国籍別にみると、中国人が最も多く272人、次いでベトナム人123人、韓国・朝鮮人110人、フィリピン人92人、タイ人19人、アメリカ人14人、インドネシア人12人、ブラジル人6人、イギリス人4人、ペルー人3人で、その他82人となっています。

2 男女の別

(1) 米沢市の人口を男女別にみると、男性は40,258人、女性は40,994人で、人口性比（女性100人に対する男性の数）は98.2となっています。

山形県の人口性比をみると、93.6であり本市より低い数値を示しています。

3 年齢

(1) 米沢市の年齢3区分をみると、0～14歳人口（年少人口）が8,881人、15～64歳（生産年齢人口）が46,225人、65歳以上（老年人口）が25,259人となってお

り、それぞれ総人口の10.9%、56.9%、31.1%を占めています。

これを前回調査と比べてみると、年少人口が1,680人(15.9%)の減少、生産年齢人口は4,412人(8.7%)の減少、逆に老年人口は937人(3.9%)の増加となり少子高齢化がさらに進んでいます。(図1、付表1)

(2) 人口の老年化の程度を示す指標である「老年化指数(年少人口100に対する老年人口比率)」は、昭和30年から一貫して上昇を続け、60年64.2、平成2年86.1、平成7年115.2、平成12年141.6、平成17年171.6、平成22年197.8、平成27年230.3、と老年人口が年少人口を上回り、令和2年は284.4と大幅に上昇。老年人口が年少人口の2倍を超える割合となりました。(図2、付表2)

(3) 年齢(5歳階級)で最も人口が多いのは、65歳~69歳で5,965人となっています。男女別でみると、男性は20歳~24歳が最も多く3,047人であり、女性は85歳以上の人口が3,731人となっています。(図3、付表3)

また、各年の男女別人口の推移をみてみると、一貫して女性が男性を上回っており、令和2年における人口性比(女性100人に対する男性の数)は、98.2と前回調査の96.0から2.2増加しています。(図4、付表4)

4 配偶関係

(1) 令和2年国勢調査の15歳以上人口を配偶関係別にみると、男性は未婚が11,699人(33.4%)、有配偶が19,565人(55.8%)、死別が1,214人(3.5%)、離別が1,591人(4.5%)となっています。一方、女性は、未婚が7,462人(20.5%)、有配偶が19,357人(53.1%)、死別が6,177人(16.9%)、離別が2,663人(7.3%)となっています。

(2) 未婚の割合を前回調査と比較すると、男女ともに上昇しており、特に上昇が顕著な年齢層では、男性は30~34歳で4.1ポイント上昇しています。一方、女性も30~34歳で6.3ポイント上昇しており、30歳前半の未婚者の割合が増加していることが分かります。

5 世帯

(1) 10月1日の本市の総世帯数は、33,095世帯となっています。このうち、一般世帯は33,013世帯、その世帯人員は78,729人で1世帯当たり人員は2.38人となっています。

平成27年~令和2年の5年間に、一般世帯数は119世帯増加し、一般世帯人員は4,720人減少し、1世帯当たり人員は平成27年の2.54人から更に0.1人減少したこととなります。

(2) 一般世帯の世帯人員別分布をみると、1人世帯の12,273世帯(一般世帯総数の

37.2%) が最も多く、次いで2人世帯の8,196世帯(24.8%)、3人世帯の5,526世帯(16.7%)、4人世帯の3,786世帯(11.5%)と続いており、4人以下の世帯が全体の90.2%を占めています。これを前回調査と比べると、増加が最も大きいのは、1人世帯で1,131世帯、次いで2人世帯の277世帯となっており、少数人員世帯が増加しています。(図5、付表5)

- (3) 一般世帯の家族累計別割合をみると、世帯主と親族関係にある世帯員がいる親族世帯が20,488世帯(62.1%)、非親族世帯が243世帯(0.7%)、単独世帯が12,273世帯(37.2%)となっています。また、親族世帯のうち核家族世帯は、15,178世帯、その他の親族世帯が5,310世帯となっています。(図6、付表6)

平成27年から令和2年にかけての家族類型別一般世帯の増減を見ると、単独世帯が1,131世帯増加し、次いで夫婦のみ世帯が251世帯増加し、その他の親族世帯が962世帯減少しています。

- (4) 65歳以上の親族がいる一般世帯は12,575世帯で、一般世帯総数の38.1%を占めており、平成27年の46.9%に比べて8.8ポイント減少しています。また、65歳以上の1人世帯も、平成27年の2,976世帯から、令和2年は3,300世帯と増加しています。

6 労働力、就業状態

- (1) 労働力人口のうち、就業者40,875人をその従業上の地位別にみると、雇用者35,111人、自営業主3,549人、家族従業者1,266人で、就業者に占める割合は、それぞれ85.9%、8.7%、3.1%となっています。
- (2) 15歳以上就業者総数40,875人を産業部門別にみると、農林漁業の第1次産業就業者が1,369人、鉱業、建設業、製造業の第2次産業就業者が13,599人、商業、サービス業等の第3次産業就業者が24,481人でその構成比はそれぞれ3.3%、33.3%、59.9%となっています。(図7、付表7)
- (3) 就業者の産業構造の推移をみると、昭和60年は、第1次産業が9.6%、第2次産業が42.2%、第3次産業が48.1%でした。以降、第1次産業就業者の就業者総数に占める割合は、平成2年7.4%、平成7年5.9%、平成12年4.9%、平成17年4.7%、平成22年4.0%、平成27年3.8%、令和2年3.3%と減少しています。これに対し、第3次産業就業者の就業者総数に占める割合は、平成2年49.6%、平成7年51.8%、平成12年53.2%、平成17年58.0%、平成22年57.9%、平成27年58.9%、令和2年59.9%と一貫して拡大しています。(図8、付表8)
- (4) 令和2年の労働力人口は、42,362人(就業者：40,875人、完全失業者：1,487人)で、平成27年と比べ651人(就業者：548人の減、完全失業者：103人の減)率にして1.5%の減となっています。

非労働力人口は25,546人で、前回調査と比べると4,109人減少していますが、率にして13.9%の減となっています。

7 住宅

- (1) 住宅の所有状況については、令和2年の住宅に住む一般世帯32,696世帯を所有の関係別にみると、持ち家に住む世帯が21,219世帯(64.9%)で最も高く、次いで民営の借家に住む世帯が9,345世帯(28.6%)、公営・都市機構・公社の借家に住む世帯919世帯(2.8%)、給与住宅に住む世帯956世帯(2.9%)、間借りの世帯257世帯(0.8%)となっています。持ち家率(一般世帯総数に対する持ち家数の割合)は、64.2%となっています。
- (2) 住宅に住む一般世帯の建て方別の構成比をみると、一戸建が66.0%で最も多く、次いで共同住宅の33.1%、長屋建が0.8%、その他0.1%となっています。

8 昼間人口

- (1) 本市の常住地による人口は81,252人(夜間人口)ですが、昼間就業と通学のため本市に入ってくる人口10,423人、本市から就業と通学のため出ていく人口5,100人との差が5,323人で流入超となるため、昼間人口は86,575人となり前回調査の91,861人を5,286人下回っています。
- (2) 従業地による就業状況をみると、就業者は45,286人で、そのうち米沢市に常住する就業者は35,310人で他市町村に常住する就業者は8,918人(県内就業者8,456人、県外就業者462人)となっています。
県内他市町に常住する就業者をみると、高畠町が3,077人で最も多く、次いで南陽市の1,861人、川西町の1,630人、山形市の646人、長井市の524人、飯豊町の199人、上山市の162人、白鷹町の123人、その他の市町村234人となっています。
- (3) 通学地による通学者数は5,362人で、そのうち自市町村に常住している通学者が3,789人で、県内他市町村からの通学者は1,281人、県外からの通学者は204人となっています。
県内他市町村からの通学者の内訳をみると、高畠町が329人と最も多く、次いで南陽市308人、川西町205人、長井市114人、山形市84人、飯豊町59人、白鷹町43人、小国町60人、その他79人となっています。

※ 注)「8 昼間人口(1)」での常住地人口には、年齢不詳のものが含まれていないため、確定人口とは一致しません。また、「8 昼間人口(2)・(3)」

での流入・流出人口は 15 歳以上のものだけであり、昼間人口を算出するときの流入・流出人口とは一致しません。

9 夜間人口

- (1) 常住地による就業状況をみると、就業者は 40,875 人（従業地不詳含む）で、そのうち米沢市内に就業する就業者数は 35,310 人で、他市町村に通勤する就業者は 4,597 人、うち県内就業者 3,979 人、県外就業者 528 人となっています。県内他市町村に通勤する就業者をみると、高畠町へ 1,203 人、南陽市へ 840 人、川西町へ 775 人、山形市へ 489 人、長井市へ 365 人、その他の市町村へ 307 人となっています。
- (2) 常住地による通学状況をみると通学者は 4,465 人で、そのうち米沢市内に通学する通学者は 3,789 人で、他市町村に通学する通学者は 605 人（県内通学者 437 人、県外通学者 151 人）となっています。内訳をみると、山形市へ 294 人、川西町へ 54 人、高畠町へ 63 人、上山市へ 10 人、その他の市町村へ 16 人となっています。

※ 注) 「9 夜間人口」での流入・流出人口は 15 歳以上のものだけであり、昼間人口を算出するときの流入・流出人口とは一致しません。